



日本生協連

品質保証レポート 2020

2019年度報告

目次

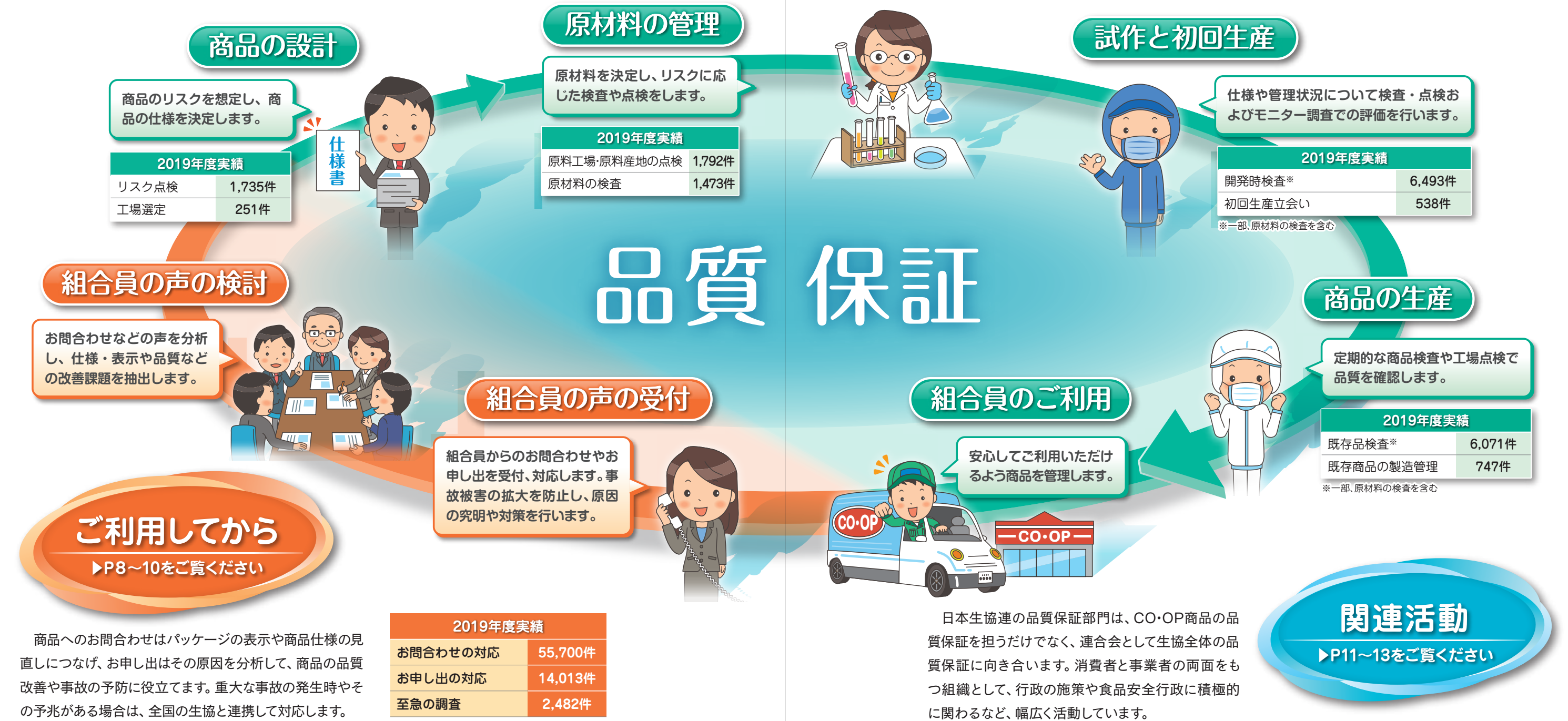
安全と安心のために	2
ご利用まで	4
ご利用してから	8
関連活動	11
全国の生協の連携	14
CO・OP商品60周年特別企画	18

安全と安心のために

CO・OP商品の品質保証体系と2019年度活動実績

日本生協連とは

日本生協連は各地の生協や生協連合会が加入する全国連合会です。全国の生協の中央会的役割を担うほか、CO・OP商品の開発と会員生協への供給などの事業を行っています。日本生協連が供給するCO・OP商品は2020年4月現在5,545品、製造を委託しているお取引先は671社1,399工場です。



組合員とのコミュニケーション

商品の安全や

品質に関わるさまざまな情報を開示し、疑問や不安にお応えします。

商品検査

活動概要

日本生協連商品検査センターは、1972年の商品検査室設立以来、「組合員、消費者の安心できる暮らし」を実現するため、CO・OP商品の安全と品質を科学的に検証し、商品事業をサポートしています。

2019年度は19,833件の検査を実施しました。商品の開発時およびお申し出の発生時に重点的に検査を行い、CO・OP商品の品質保証に取り組みました。お申し出の減少と食品表示法対応が終了したこと（→P.12 参照）を受けて、検査総数は減少しました。

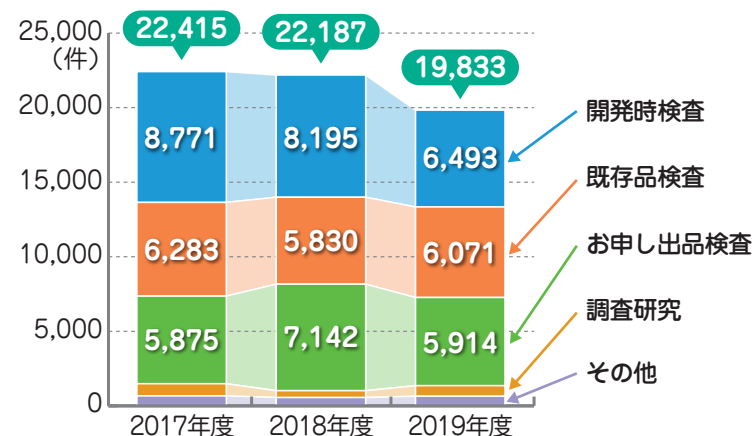


▲商品検査センターでは、68人（2020年4月現在）の職員が検査とその関連業務に携わっています。

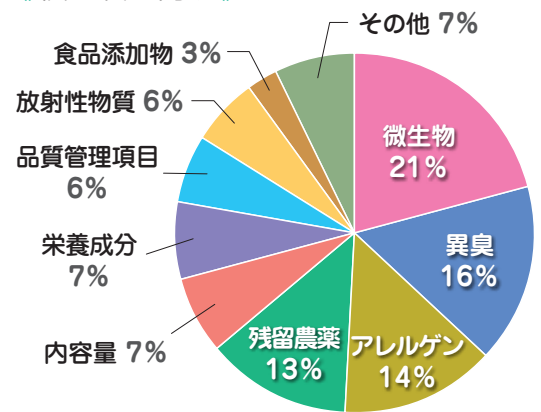
データで見る2019年度実績

検査のステージ	主な検査の役割	検査件数	割合
開発時検査	開発する商品について、工場の衛生管理、アレルゲンの管理、原材料の安全性などを確認します。また、栄養成分を分析し、栄養成分表示案を作成します。	6,493	32.7%
既存品検査	供給中の商品について、仕様通りの商品か、管理状態に問題はないか、確認します。	6,071	30.6%
お申し出品検査	お申し出品の危害性判断や異臭の原因物質の特定などを行います。	5,914	29.8%
調査研究	市販品の検査を行って、CO・OP商品の開発に活かします。	710	3.6%
その他	商品部門や会員生協からの検査依頼に対応します。	645	3.3%
検査件数合計		19,833	

《商品検査の件数推移》



《検査項目内訳》

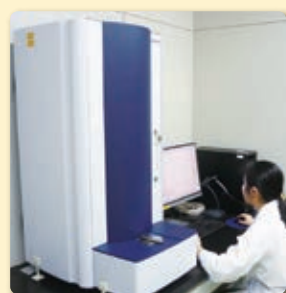


目的に合わせた項目で検査を実施します

TOPICS

菌種同定検査 ～MALDI-TOF MSの導入～

微生物起因の商品事故対応では、危害性判断や原因究明のため、原因菌の同定（特定）が求められます。従来、遺伝子解析により菌種同定を行っていましたが、分析操作が煩雑で、1日に約10菌株の検査しかできませんでした。MALDI-TOF MS（マルディトフマス：タンパク質を解析する装置）を導入することにより、1日に100菌株の検査が可能となり、2019年度からお申し出検査での活用を始めました。



▲MALDI-TOF MSを操作する様子

工場点検

活動概要

CO・OP商品の製造を委託をしている工場の点検を実施しています。目的に応じて品質保証部門と商品部門が協力、分担して実施します。点検で見つかった問題点は工場改善に取り組んでいただき、その結果を確認しています。

2019年度は1,813件の工場点検を実施しました。2020年2月以降は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、工場点検業務を休止したため、点検件数が減少しました。電話、メール、オンライン会議などで、工場での自主点検結果や、管理状況の確認を行いました。

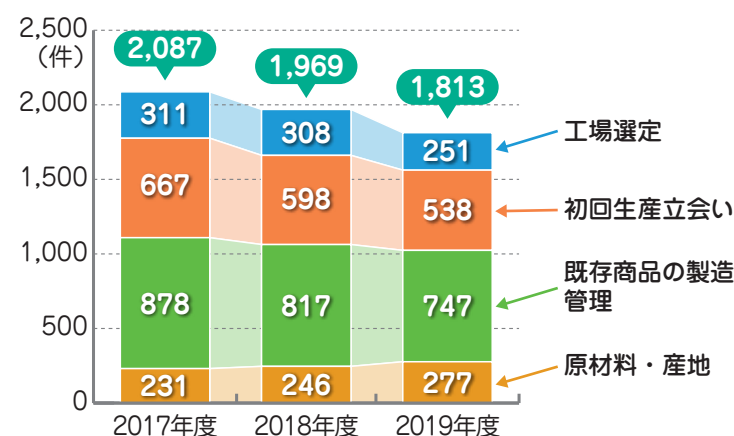


▲工場点検では、生産中の現場で管理状況を確認していきます。

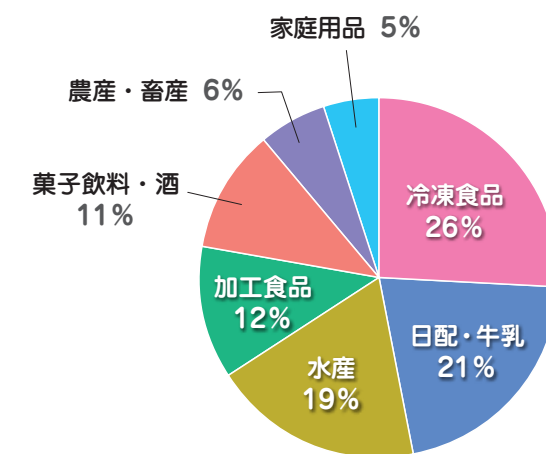
データで見る2019年度実績

点検の確認ポイント	点検の種類	主な点検の役割	点検件数	割合
✓ 施設・設備	工場選定	CO・OP商品の製造を委託できる工場か確認します。	251	13.8%
✓ 基礎衛生	初回生産立会い	決めたルール通りに製造できているか確認します。	538	29.7%
✓ 従業員	既存商品の製造管理	供給中の商品を生産している工場の管理を確認します。	747	41.2%
✓ 原材料・資材	原材料・産地	原料の生産管理状態や産地の収穫工程を確認します。	277	15.3%
✓ 製造工程管理	点検件数合計		1,813	
✓ 検査・記録				

《工場点検の件数推移》



《商品分類内訳》



TOPICS

JFS-B規格を活用した工場点検帳票の整備を進めました

日本生協連では、食品安全の社会システムづくりに貢献するため、食品安全規格づくり・活用の取り組みに、引き続き参画しています。2019年度は、日本独自の食文化や慣習を反映した食品安全マネジメント規格（JFS規格）のうち、国内事業者向けの「JFS-B規格」で要求している管理項目について、お取引先で自己点検を実施いただきました。合わせて、日本生協連の工場点検の点検項目にも反映し、活用していくための準備を進めました。2020年度より、JFS-B規格も取り入れた点検項目での工場点検を開始します。



▲点検に使用する帳票の改訂も行いました。

商品開発時のリスク点検

活動概要

CO・OP商品を開発する際、その商品について様々な角度から安全性や品質の面で問題となるであろう点を事前に特定し、関係者との協議、検証などを進めながら、発売前にそれら一つひとつを低減しています。食品の安全性はもちろん、おいや風味の劣化なども想定して対応しています。

2019年度は、開発・リニューアルしたCO・OP商品について、年間で1,735件のリスク評価を実施しました。製造工程、仕様配合、期限設定、物流耐性、化粧品では成分の安全性などを確認し、個別商品のリスクに応じた対応を進めました。



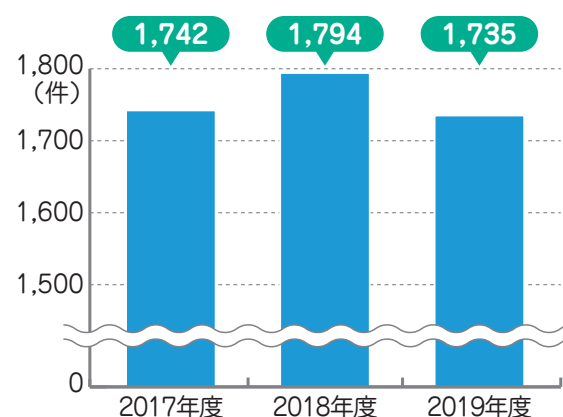
▲新規開発品の初回品について実際に試食し、品質確認をしています。

データで見る2019年度実績

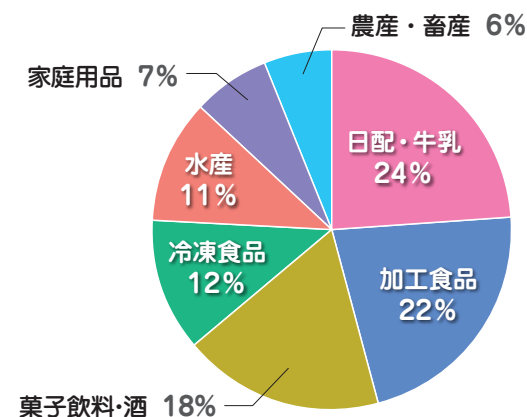
点検の確認ポイント

- ☑ 特定の微生物や化学物質、異物や異臭に対する対策
- ☑ 産地や品種を指定している原料の管理状況や品質は確かか
- ☑ 消費・賞味期限の科学的・合理的な根拠に基づく設定
- ☑ 誤使用などにより思わぬ事故を誘発しないか

《リスク点検の件数推移》



《商品分類内訳》



TOPICS

きらきらステップシリーズの品質管理

きらきらステップシリーズは、乳幼児期のお子さまと、子育てをがんばるママ&パパを応援する商品です。乳幼児に安心して与えられるよう、安全面を最優先し、商品設計や品質検査を行っています。特に食物アレルギーについては、乳児期に発症することが多いとされ、離乳食の開始や進行に戸惑うお母さんが多くみられます。きらきらステップシリーズでは、その商品に使用するアレルギー原料の有無を確認し、製造する工場アレルギー管理ができていないことを確認します。加えて、生産ロット毎にアレルギー検査を実施し、混入防止を徹底しています。また、大きさ、食感、素材選択などが対象月齢に合っているか、調理方法が適切かといったことについても、管理栄養士によるアドバイスを受けながらチェックをしています。



原材料管理・原材料点検

原料の農産物は、必要に応じて残留農薬の検査を行うなど、加工前の原料（農畜水産物）の検査を実施し、安全性を確保します。

原料の産地や品種を指定している商品は、仕様書どおりの原材料を安定して確保できることを確認したうえで商品開発を進めます。特に産地や品種にこだわった原料は「特別管理原材料」として、取り扱いの管理を強化しています。対象の原材料については、原料工場や産地の点検、調達ルートを確認を実施しました。



▲原料の産地や品種を指定している商品の例。原料管理の確認が欠かせません。

原料工場・原料産地の点検（特別管理原材料）	件数
原材料として「特別管理原材料」を使用している工場の点検	206
「特別管理原材料」の原料工場や産地の点検	67
原料調達ルートの確認	1,519
点検件数合計	1,792

原材料の検査（特別管理原材料以外の原料も含む）	件数
残留農薬検査	625
放射性物質検査	260
重金属検査	218
動物用医薬品検査	167
GMO（遺伝子組換え作物）検査	47
その他の検査（食品添加物、自然毒、アレルゲンなど）	156
検査件数合計	1,473

輸入品の管理

輸入品は、製造国の状況や新たな食品安全・品質に関わる問題を踏まえて、管理方針を毎年見直し、品質管理の強化に取り組んでいます。

特に日本生協連の貿易子会社（株）コープトレード・ジャパン、以下CTJ）を通じて輸入している商品は、日本生協連が直接の輸入者として、管理を行っています。

CTJは、世界7ヶ所（中国〈上海・青島〉、タイ、ベトナム、シンガポール、イタリア、アメリカ（コープトレード・アメリカ（CTA））に海外事務所があります。CO・OP商品の製造に合わせてお取引先を訪問し、生産立会いや検品を実施して、海外なればこその特徴的な商品開発と、開発後の安定的な調達と品質の向上に日々取り組んでいます。また、品質保証部、商品検査センターとCTJで品質協議を月次で開催し、輸入商品の製造委託工場の状況や、商品開発作業の進捗について随時確認を実施しています。

点検の種類	件数
生産立会い・検品	365
工場点検	520



▲CTJとの品質協議の様子。

お問合わせ対応

活動概要

CO・OP商品のパッケージには、日本生協連組合員サービスセンターの連絡先を明記しており、全国の組合員からの商品に関する様々なお問合わせを、主に電話で受け付けています。お問合わせは、商品の仕様設計や購入に関すること、意見要望など、多岐にわたります。

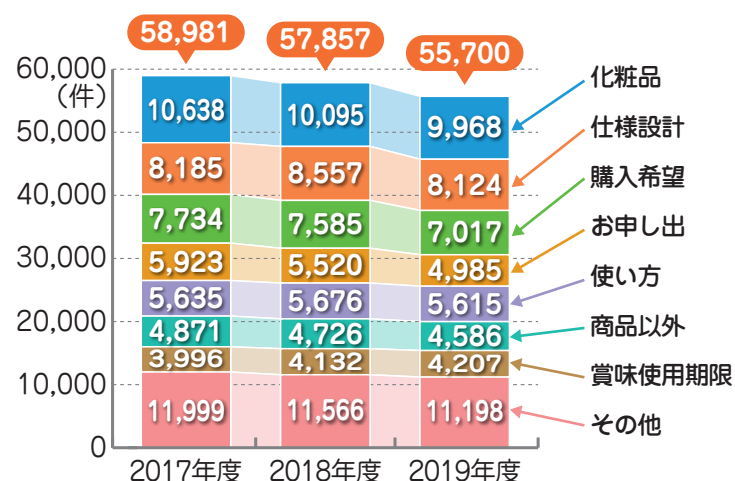
2019年度は55,700件のお問合わせをいただきました。お問合わせの理由や利用時の状況などを深掘りして伺うことができた16,657件の声について、商品の見直しや商品開発のためのデータとして活用させていただきました。



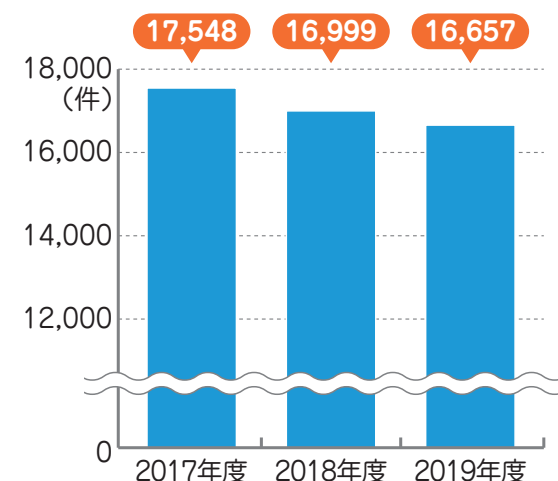
▲組合員サービスセンターでは20人（2020年4月現在）の職員がお問合わせに対応しています。

データで見る2019年度実績

《お問合わせ対応の件数推移》



《「声」の記録活用件数推移》



TOPICS

組合員の声にこたえて

組合員サービスセンターに寄せられた、組合員の声に基づき、コープ商品の開発や見直しが進められます。複数の組合員から寄せられた「CO・OP玄米もち」の個包装が開けにくいというご意見について、協議を進め、より開けやすい容器に改善しました。

事例 CO・OP 玄米もち



組合員の声 → 個包装が開けにくいです。

2019年10月 リニューアル

玄米を使用しているため、品質保持のため加圧加熱殺菌しています。そのため通常の切り餅より丈夫で密着した個包装になります。包材の材質を見直し、**ノッチ（ギザギザ部分）に切り込みを入れる**ことで開けやすくしました。



お申し出対応

活動概要

商品の不具合・不良のご連絡をいただくことを「お申し出」と呼んでいます。お問合わせ管理センターでは、全国の組合員から寄せられるCO・OP商品のお申し出を受け、お取引先に調査・改善を依頼し、結果を会員生協・組合員にお答えしています。

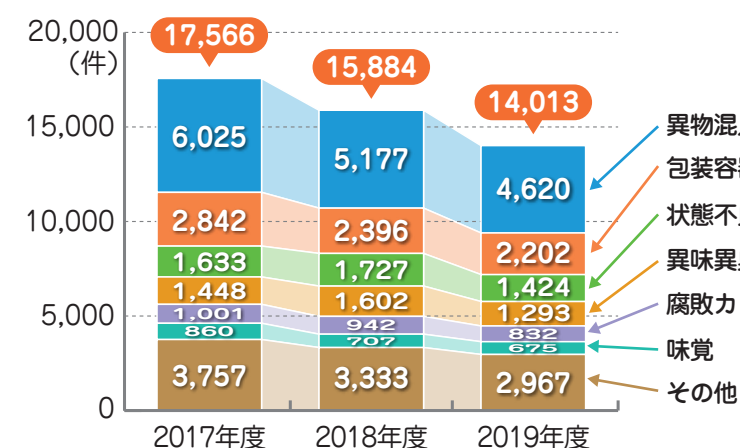
2019年度のCO・OP商品のお申し出件数は14,013件で、4年連続で減少しました。



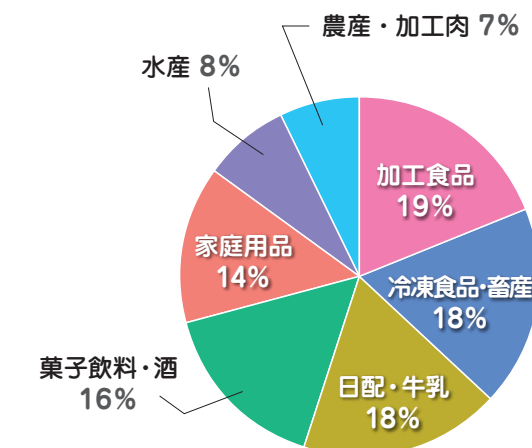
▲会員生協・組合員から送られてきたお申し出商品は丁寧に確認します。

データで見る2019年度実績

《お申し出対応の件数推移》



《商品分類内訳》



《お申し出品検査の実施件数》

検査の種類	件数	割合
異臭検査	2,983	50.4%
農薬検査	1,663	28.1%
微生物検査	674	11.4%
その他	594	10.1%



▲異臭検査では機械と人の鼻の両方で検査を行います。



POINT!

異味異臭のお申し出品は、商品検査センターとお取引先の両方で調査と検査を行います。それ以外のお申し出も内容・状況に合わせて検査を実施し、原因究明や改善につなげています。

TOPICS

お申し出対応の教育動画を作成しました

お申し出の初期対応手順などについてまとめた「お申し出対応ハンドブック」の内容をアニメーションにした教育動画を作成しました。お申し出の初期対応のポイント、聴き取りのポイント、お申し出品の回収方法などを、分かりやすく解説しました。宅配センターや店舗の職員が、組合員からのお申し出に対して、安心して適切に対応できるように、研修等で活用しています。



▲分かりやすいアニメーションの動画です。

安全政策

活動概要

日本生協連は政府審議会などへ積極的に関わることで、食品安全行政に意見を反映するとともに、情報をいち早く詳しく入手して検討・評価・対応をし、全国の会員生協に発信しています。消費者と事業者の両方の立場で意見・提案をし、日本の食品行政全体の施策改善に貢献していきます。

日本生協連の消費者行政・食品安全に関する政府審議会等への参加状況 2020年4月現在

内閣府	農林水産省
食品安全委員会	農業資材審議会 飼料分科会
企画等専門調査会	リスク管理検討会
研究・調査企画会議	戦略的プロジェクト研究推進事業委託事業「有害化学物質・微生物の動態解明によるリスク管理技術の開発」運営委員会
厚生労働省	国際植物防疫条約に関する国内連絡会
食品衛生分科会	農研機構 動物衛生研究部門 運営委員会
食品衛生分科会添加物部会	農林水産省／厚生労働省／消費者庁
食品衛生分科会食品規格部会	コーデックス連絡協議会
食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会	
薬事・食品衛生審議会	
食品衛生分科会動物用医薬品等部会	
食品用器具及び容器包装の規制の在り方に関する技術検討会	
食品衛生管理に関する技術検討会	
食品の営業規制の平準化に関する検討会	
飲食店等食品事業者におけるHACCP理解醸成事業実施団体選定審査委員会	



どんなことをやっているの? ~コーデックス連絡協議会~

食品の国際的な基準を策定している「コーデックス委員会」の活動や検討状況についての報告や、委員会での日本政府の対応方針について意見交換をする会議です。

日本生協連から行政機関に提出した 食品安全・食品表示・消費者行政（食品分野）に関する意見書・要望書

2019年3月21日～
2020年3月20日

提出先	提出日	意見書タイトル
厚生労働省	2019年 4月17日	米国、カナダ及びアイルランドから輸入される牛肉等の輸入に関する措置の見直しについて
消費者庁	2019年 4月19日	新たな遺伝子組換え表示制度に係る食品表示基準の一部改正について
内閣府 消費者委員会	2019年 7月17日	「ゲノム編集技術応用食品及び添加物の食品衛生上の取扱要領(案)」への意見
厚生労働省	2019年 12月 4日	「有機農産物の日本農林規格等の一部改正案について」への意見
農林水産省	2020年 1月15日	新たな「食料・農業・農村基本計画」に関する意見書
消費者庁	2020年 1月20日	第4期消費者基本計画(案)に関する意見
厚生労働省	2020年 2月18日	「2020年度(令和2年度)輸入食品監視指導計画(案)」に対する意見
内閣府 食品安全委員会	2020年 3月18日	「2020年度(令和2年度)食品安全委員会運営計画(案)」に対する意見

詳しくは日本生協連ホームページの「日本生協連からのお知らせ・ニュースリリース」内「政策提言」のページをご覧ください。URL <https://jccu.coop/info/suggestion/>

日本生協連 政策提言

検索

予兆の把握、事故対応、原因究明

活動概要

過去の商品事故の教訓から、組合員からのお申し出は安全品質管理部が全件を確認し、危害性(人体や物に危害を与える程度)や拡散性(発生の頻度や範囲)を判断しています。2019年度は2,482件のお申し出について、至急の調査が必要と判断し、対応しました。

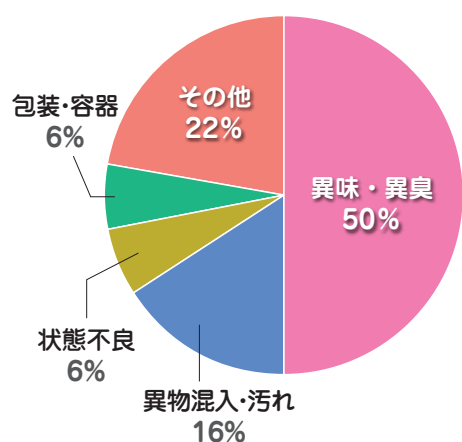
安全品質管理部は、重大商品事故発生時には被害の拡大を防止するための指示を出す司令塔の役割を担い、徹底した原因の調査や対策の指揮をします。



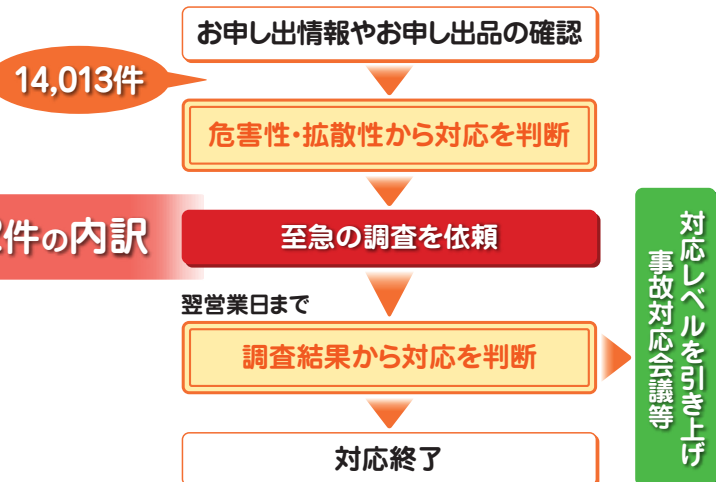
▲商品事故の対応では、状況やその拡散性を判断するため緊急の検品・検査を実施します。

データで見る2019年度実績

《至急の調査をしたお申し出の内訳》



◆ 安全品質管理部の対応フロー ◆



TOPICS

お申し出の迅速な対応や原因究明のために、新たな取り組みを行い、解決のためのコミュニケーションを重ねています

【取り組み1】ティッシュペーパー

ティッシュペーパーで異臭(カビ臭)のお申し出の発生事例がありました。におい移りの可能性があったため、お取引先の物流倉庫3か所を訪問し、倉庫内や備品などの臭気確認を行いました。その結果、原因究明することができ、におい移りの対策をとることができました。



▲お取引先の物流倉庫を訪問し、倉庫内や備品などの臭気確認を行いました。

【取り組み2】栗

栗を使った製品で、異臭(カビ臭)のお申し出が発生しました。原料の栗が原因と考えられたため、現地中国での栗の産地と加工工場を訪問しました。各工程を点検した結果、直接の原因究明には至らなかったものの、異臭リスクとなる工程を絞り込むことができました。



▲栗の渋皮を剥いている様子。機械化が難しく、すべて手作業で行っています。



▲加工工場での選別の様子。変色などを防ぐため、常に水に漬けられています。

2019年度の関連活動



食品表示に関わる制度改正への対応

食品表示法が2015年4月に施行され、2020年4月以降の加工食品の栄養成分表示が義務化されました。新たな表示ルールとして、タイトルは「栄養成分表示」とすること、熱量・たんぱく質・脂質・炭水化物・食塩相当量の5項目を必ず表示しなければならないことなどが定められました。

CO・OP商品は、施行前からほとんどの加工食品に栄養成分表示を表示していましたが、表示ルールが変わったため、供給中のすべてのCO・OP商品の栄養成分表示の変更を行いました。2016年3月発売商品から、表示の変更を開始し、2020年3月31日までにすべてのCO・OP商品について対応を終了しました。

変更前	変更後
栄養表示 1食20gあたり エネルギー 53kcal 炭水化物 13.1g たんぱく質 0.1g ナトリウム 6.3mg 脂質 0g 糖類 12.2g 糖類とは、しよ糖、ぶどう糖、果糖です。 (日本生協連商品検査センター作成)	栄養成分表示 1食20gあたり エネルギー 53kcal 炭水化物 13.1g たんぱく質 0.1g 一糖類 12.2g 脂質 0g 食塩相当量 0.02g (日本生協連商品検査センター作成)



ゲノム編集食品に関するリスク・コミュニケーション

2019年10月から、「ゲノム編集技術に応用した食品」の一部流通が可能となりました。まだ国内で流通している商品はありますが、全国各地の組合員から「ゲノム編集食品って何?」「安全性は?」といった疑問や不安の声が上がっていることを受けて、さまざまな対応を行っています。

2019年度は、ゲノム編集食品についての「正確な情報の収集」「組合員に分かりやすく伝えるための資料作成」「全国の生協の学習会での解説(12生協から依頼をいただき、参加者総数は約730名)」などに対応しました。引き続き、組合員が正確に理解し、考えられるよう、適時・適切な情報収集と提供に努めていきます。



▲エフコープでの学習会の様子。



▲学習会で用いた資料の一部



「商品なるほどシート」の取り組み

組合員のお問合わせに、それを受けた職員が適切に答えることができれば、お申し出になる前に解決できることもあります。お問合わせ管理センターでは、お申し出になりやすい商品の商品特性を解説した「商品なるほどシート」を作成しています。

2019年度も、新規作成とリニューアルを実施し、全部で54シートとなりました。組合員にホームページや誌面でご案内している生協もあり、新任職員用の通信教育にも採用されています。



組合員や社会の不安に応えて ～放射性物質検査・調査～

2011年度から、CO・OP商品の放射性物質検査と一般家庭(組合員)の食事に含まれる放射性物質の量を調査し、情報提供を継続しています。

◆ CO・OP商品とその原料の放射性物質検査

組合員や社会の不安に応えていくことを目的に、CO・OP商品とその原料の検査を継続しています。2019年度実施分を含めて、2012年度以降、基準値を超える放射性セシウムは検出されていません。

◆ 組合員の食事からの放射性物質摂取量調査

2019年度は全国の17都県の生協組合員235家庭から実際の食事2日分を提供していただき、会員生協の検査室と協力して、放射性物質の量を調査しました。調査したすべての食事で、検出限界以上の放射性セシウムは検出されませんでした。また、コープふくしまで開催された学習会で調査の意義や結果などを報告し、組合員との交流を深めました。



▲細かくした検体を詰めた容器を検出器にセットして測定します。



▲コープふくしまで開催された「家庭の食事からの放射性物質摂取量調査」の学習会に参加し、調査の意義や結果などを報告しました。



商品本部と連携した学習会の開催 ～農薬問題に関する学習・情報交流会～

2019年度には新たな試みとして、安全政策推進室と商品本部産直グループの共催で「農薬問題に関する学習・情報交流会」を5月と10月の2回、開催しました。5月は20生協、10月は21生協から参加いただきました。学習講演では、専門家や行政担当者から農薬に関する最新の情報を伺いました。会合の後半では、それぞれの生協での取り組み事例や問題意識を発表し合い、交流しました。



▲会合の後半は円卓形式をとり、参加者による発表や意見交換を行いました。



外部からの助言・評価をいただく仕組み ～品質保証評価委員会～

「商品の安全と品質を管理する仕組み」の運用状況を監視するという位置付けで、「品質保証評価委員会」を設置しています。日本生協連の品質保証の取り組みに関して外部の有識者から幅広い助言をいただき、品質保証体系の改善に役立てています。2020年2月20日に第24回を開催し、2019年度の取り組みを評価いただくとともに、委員である(公社)消費者関連専門家会議の事務局長である喜山洋子氏に「企業の消費者対応」に関して講演をいただきました。



▲2019年度の品質保証の取り組みを報告し、委員の皆様からご意見をいただきました。

全国の生協の連携

日本生協連と会員生協の連携した品質保証活動

日本生協連と全国の生協は、連携して商品の安心・安全を守る品質保証活動に取り組んでいます。

生協の商品事業に関連して、日本生協連の商品基準や、生協全体の安全・品質・表示について専門的な議論を行っている「安全・品質小委員会」、品質保証活動全般について生協間の連携を強化していくことを目的とした「品質保証連携強化委員会」、品質保証の担当者が学習・交流する「全国品質管理交流会」を開催し、生協間でのつながりを強化しています。



品質保証連携強化委員会

品質保証連携強化委員会の構成

品質保証連携強化委員会は、全国の品質保証活動の連携を一層進めるため、理事会専門委員会として2017年に設置されました。委員会下に、「検査共同」、「工場・店舗点検」、「お申し出対応」の3つの作業部会を設け、それぞれの分野で連携強化のための取り組みを進めています。

品質保証
連携強化委員会

検査共同作業部会

工場・店舗点検作業部会

お申し出対応作業部会

検査共同作業部会

全国の生協での検査業務について、標準版となる検査手法の検討や検査用資材の共同調達、人材育成に取り組んでいます。2019年度は微生物検査方法の生協標準版の作成や残留農薬検査で使用する消耗備品の共同調達について取り組みました。全国の生協の検査室と連携して、共通の仕組みづくりを進めています。



▲微生物検査法（生協標準版）と教育用に作成したテキスト

工場・店舗点検作業部会

製造委託工場や、生協の店舗での衛生管理に関する取り組みについて情報共有をしています。2019年度は、これまでに作成した『工場点検ハンドブック（基礎編）』や、『「スーパーマーケットにおけるHACCPの考え方を取り入れた衛生管理のための手引書」実践に向けた生協店舗の衛生管理ガイドライン』について理解を深めるための学習会を開催しました。また、生協の主要な事業である、宅配分野での衛生管理についても議論を進めました。

※HACCP：製品（食品）の安全性を確保する衛生管理手法の一つ



▲工場点検ハンドブック（基礎編）学習会には19生協54名が参加しました。

お申し出対応作業部会

全国で同一内容のお申し出が発生した際に迅速に情報共有し、各生協で適切に対応できるように「お問合わせ管理システム：クイックプロⅡ」を活用しています。商品事故が発生した際にスムーズに連携が取れるように、12生協51名が参加してお申し出対応演習を行いました。また、お申し出の初期対応手順などについてまとめた「お申し出対応ハンドブック」の内容をアニメーションにした教育動画を作成しました。（➡P.9 TOPICS 参照）



▲全国の生協での演習風景



全国の生協の交流

全国品質管理交流会

全国の生協では、分野ごとに「全国品質管理交流会」を開催し、品質管理に関する知識の共有や学習、職員同士の交流を行っています。

2019年度は、検査に関する知識や技術をテーマとした「検査」、工場及び店舗の衛生点検業務をテーマとした「工場・店舗点検」、家庭用品のお申し出対応や表示に関する情報共有をテーマとした「家庭用品」の3つの分野で交流会を開催しました。

◆全国品質管理（検査）交流会

14生協27名が参加し、各生協の検査室の近況について報告いただき、意見交換をしました。また、検査施設の広報活動について、先進的に取り組みを進めているコープこうべ、大阪いずみ市民生協、パルシステム連合会より取り組みを紹介いただきました。テーマ別分科会では、「検査業務マネジメント」、「お申し出検査」、「検査業務の効率化」の3テーマでグループディスカッションを行いました。



▲分科会「検査業務マネジメント」の様子。人材育成をテーマに全国生協の検査室における教育体制や役割分担などを話し合いました。

◆全国品質管理（工場・店舗点検）交流会

20生協41名が参加し、日本生協連品質保証本部長スタッフの鬼武を講師に、HACCPの基本的な考え方、制度化で求められる内容、各種事業者団体が作成している業種別手引書の位置づけと作成状況等について学習会を行い、最新の情報を共有しました。その後、「店舗点検」と「工場点検」の各分科会に分かれ、点検担当者の具体的な悩みや、新任担当者の教育などをテーマにグループワークを行いました。



▲グループワークでは各生協での事例を持ち寄り交流しました。

◆全国品質管理（家庭用品）交流会

6生協22名が参加し、公益社団法人日本広告審査機構の倉本仁美氏に、景品表示法と医療品医療機器等法の概要、消費者庁からの指摘事例、価格表示の注意点などについてご講演いただきました。その後、事例交流として、取り扱っている家庭用品でお申し出が多発した時に、どのような対応を行っているかや、過去の事例の活用などについて、参加者が事例を持ち寄り交流をしました。



▲家庭用品に関わる法律などについて理解を深めました。

全国の生協が連携した人づくり

日本生協連と会員生協の品質保証部門では、「生協の未来を担う人材の育成」を進めるため、双方で研修方針や目標を定め、数年間の出向によって品質管理を担う職員を育成する取り組みを、2017年度から継続して実施しています。2020年4月現在、コープデリ連合会、コープ中国四国事業連合、コープ九州事業連合と相互の教育出向を行っています。



▲日本生協連の商品検査センターに着任し、研修するコープデリ連合会の職員。



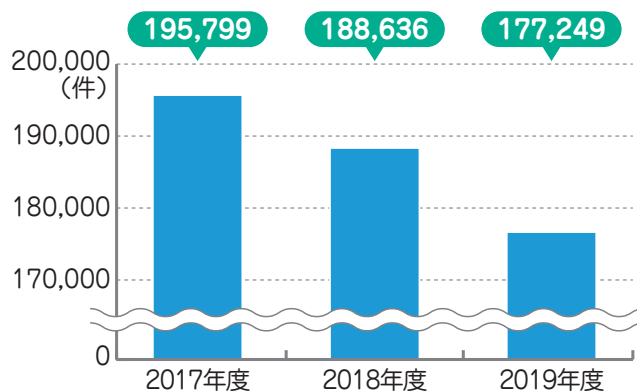
▶ 2019年度の実績

商品検査	177,249件	日本生協連では、CO・OP商品の検査を実施し、全国の生協では、各生協のプライベートブランド（PB）商品、各生協で取り扱うナショナルブランド（NB）商品、産直・生鮮品、店舗での加工品の検査を実施しています。
工場点検	2,601件	日本生協連では、CO・OP商品の製造工場の点検を実施しています。全国の生協では、各生協のPB商品や、各生協で取り扱うNB商品の製造工場について必要に応じて点検を行っています。
店舗点検	1,463件	全国の生協では、店舗のバックヤードの衛生点検、冷凍庫・冷蔵庫・陳列棚の品温点検、従業員の手洗いや器具の清掃・保管方法などの衛生指導を実施しています。
お申し出受付	113,316件	日本生協連では、組合員から寄せられるCO・OP商品についてのお問い合わせ・お申し出に対応しています。全国の生協では、各生協のPB商品、各生協で取り扱うNB商品などのお申し出に対応しています。また、日本生協連と連携してCO・OP商品のお問い合わせ・お申し出にも対応しています。

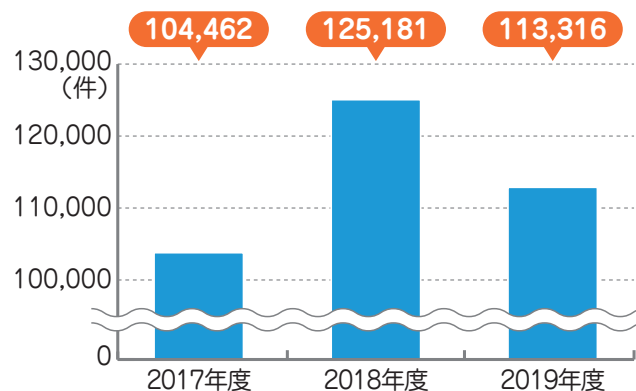
※全国の生協の品質保証活動実績数値は、安全・品質小委員会及び品質保証連携強化委員会に参加している13生協（事業連合と単一生協）と日本生協連の実績を合わせたものです。

▶ 3年間の推移

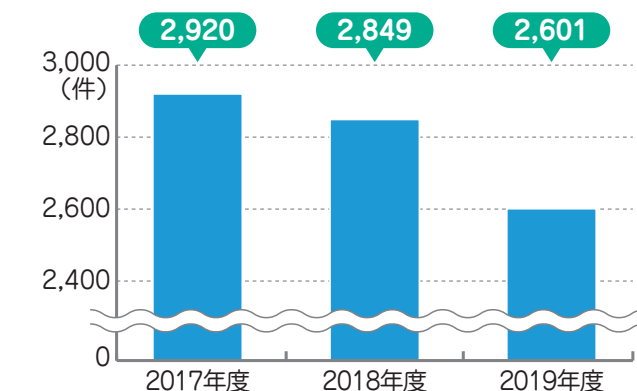
◆ 商品検査件数



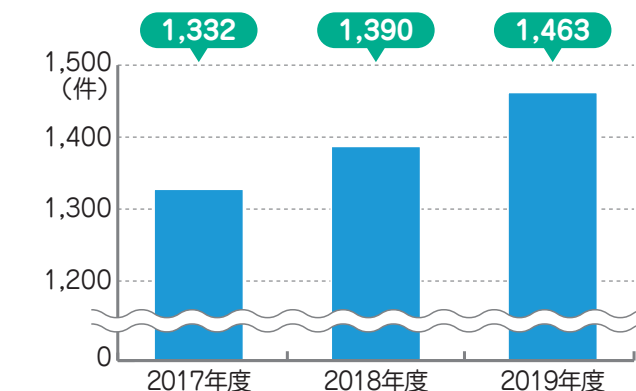
◆ お申し出受付件数



◆ 工場点検件数



◆ 店舗点検件数



▲実績数値は、安全・品質小委員会及び品質保証連携強化委員会に参加している13生協と日本生協連の実績を合わせたものです。

…… 会員生協の取り組み ……

… 夏休みの自由研究をサポート

コープデリ連合会では、組合員に商品検査センターでの検査の様子を見学していただくことで、食品安全の取り組みを伝えるとともに、コミュニケーションの場を設けています。夏休みには、日本の地域ごとに特色のある食文化「みそ」に着目した、子どもたち向けの夏休み自由研究企画として、『みそを科学する』を開催しました。講師として関東農政局の消費・安全管理官、鶴岡佳則氏を招き、各地のみその食べ比べ、みそ汁の試食、みその味覚分析、みそが消化される実験など、みその知識や和食文化を楽しく学びました。

▶「信州みそ」「八丁みそ」「麦みそ」など5種類のみそをテイastingしました。



… 店舗の衛生管理をしっかりチェック

ユーコープでは、店舗内で商品を製造する施設（総菜・鮮魚・精肉・ベーカリー）の衛生状況を確認するため、冷蔵庫の取っ手、包丁の柄、まな板、シンクレーパーなど、作業中によく触る箇所を対象として、微生物検査を実施しています。また、食品残さや微生物に含まれるアデノシン3リン酸（ATP）を検出する「ATPふき取り試験薬」を使った、洗浄度合いの見える化を行いました。2019年度は、年2回、合計254施設の点検を実施しました。



▲調理スペースを点検中の様子。

… 嗅覚官能検査に関する取り組み

コープきんきでは、異味異臭のお申し出に対応するため、2018年1月より嗅覚官能トレーニングを導入し、職員に対して定期的にトレーニングを行っています。2019年度は、事業連合に加盟する会員生協を対象とした嗅覚官能トレーニングを開催し、すでに実施していた大阪いずみ市民生協に加えて、ならコープでも会員生協内部での嗅覚官能トレーニングが始まりました。

また、2020年2月より、商品由来でない臭気のお申し出があれば、コープ・ラボで官能検査、臭気分析検査をスタートしました。今後も継続して、迅速な対応や原因究明につなげます。



▶ならコープの店舗でのトレーニング風景。

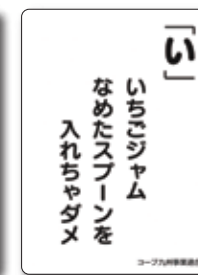
◀きんきお申し出交流会後のトレーニング風景。



… 遊びながら食品衛生が「学べる」かるたの作成

コープ九州では、九州・沖縄の8生協とともに、「生産から消費まで」の品質管理を充実させる取り組みを行っています。

その一環として、食品の調理・保管・食べる・廃棄について学べる「かるた」を作成し、2019年5月に公開しました。子どもたちにもわかりやすい表現で、楽しく遊びながら食品の品質管理について学ぶことができます。読み札には、九州地区の各生協の組合員から寄せられた、たくさんのアイデアが採用されました。組合員活動や、学童保育所などでも活用されています。



▲絵札は子どもたちにも楽しんでいただける、わかりやすいイラストです。読み札の裏には、大人向けの詳しい解説が掲載されています。



CO・OP商品と品質保証の60年

～1960年代

CO・OP商品の開発が始まる。組合員が参加しての商品開発もスタート

- 1960** CO・OP生協バター発売
(CO・OP商品第1号)
- 1966** 衣料用洗剤CO・OPソフト発売
(組合員参加開発第1号)



「商品検査」から生協の品質管理の取り組みがスタート

- 1967** 瀬神戸生協(現:コープこうべ)において商品検査室が設立、商品検査活動開始



- 1970** 北海道大学生協内に商品分析室設置(北大生協、道連、日本生協連支所、市民生協(現:コープさっぽろ)4団体で協力して設置)→1973年に札幌市民生協へ移管

1970年代

有害物質や、不必要な添加物を排除したCO・OP商品の開発が進む

- 1971** CO・OP無漂白小麦粉発売
- 1973** CO・OP無漂白塩かずのご発売
- 1977** CO・OP化粧品誕生



日本生協連で商品試験室設置、会員生協の検査室との交流が始まる

- 1972** 日本生協連商品試験室開設



- 1974** 生協間で「検査室交流会」が発足。商品検査技術・研究分野での交流を開始

- 1976** 日本生協連商品検査センター開設(埼玉県大宮市(現:さいたま市))



1980年代

組合員が商品づくりに参加し、現在も人気のCO・OP商品が次々登場

- 1981** CO・OPミックスキャロット発売
- 1983** CO・OPコアノンロール発売
- 1987** CO・OP大豆ドライパック缶発売



CO・OP商品政策の中で品質管理が位置づけられ、商品に関わる諸基準が策定される

- 1980** 日本生協連独自の「食品の栄養表示と賞味期間表示」開始決定



- 1982** CO・OP商品政策で商品開発基準を明文化、品質管理を位置づける

- 1984** 「食品添加物の手引」発行



- 1985** 「検査室交流会」が9生協が参加し「全国商品検査研究会」に発展

- 1988** お申し出、質問、意見要望のデータ集積管理を開始

組合員の皆様に愛されて60周年。

2020年はCO・OP商品が誕生して60周年。その品質の安全・安心を確認する仕組みも、進みゆく時代に対応し、強化されてきました。組合員の声や思いを形にしてきた代表的なCO・OP商品とともに、生協の品質保証活動の歩みを振り返ります。

CO・OP商品60周年
詳しい情報はHPで
ご覧いただけます

二次元コード

<https://goods.jccu.coop/60th/>

1990年代

環境配慮や産地限定など、多様なコンセプトでCO・OP商品開発

- 1990** 「環境にやさしい商品」に環境マーク設定。ステイオンタブ飲料缶発売
- 1995** コンセプト開発「日本の野菜シリーズ」発売



商品開発時の検査、組合員からの問い合わせの受付など、担う業務が拡大

- 1990** 「くらしと商品研究室」設置、お問合わせ対応業務を担う

- 1994** 商品検査センターが埼玉県蕨市に移転

- 1995** 工場点検にHACCP手法を導入、CO・OP商品開発時の検査開始

- 1996** すべてのCO・OP商品にお問合わせ先として「組合員サービスセンター」を明記

- 1998** 「残留農薬データ集」発行

- 1999** 「品質管理担当者交流会」が始まる

2000年代

会員生協との共同開発が進み、「組合員のふだんのくらしに役立つ」商品づくり

- 2000** エリア共同開発商品発売
- 2002** 全国共同開発商品発売
- 2004** クオリティコープシリーズ発売
→2008「コープ美味しさシリーズ」に発展
- 2007** 「新・低価格シリーズ」発売
- 2008** 「新・テーマ開発商品」3シリーズ発売



商品事故を反省し、品質保証体系を見直し、強化

- 2002** 商品検査センター新館開設



- 2002** 仕様表示偽装事件を受け、仕様書管理を強化

- 2005** 「安全・品質小委員会」設置

- 2008** 中国製冷凍餃子事件
「品質保証体系再構築計画」を策定し体系見直しを進める(～2010)

2010年代

CO・OP商品のブランド刷新。さまざまな組合員の想いをかたちに

- 2010** 「コープベーシックシリーズ」発売(～2015年)
- 2015** コープ商品ブランド刷新、「コープクオリティ」シリーズ発売
- 2017** 「きらきらステップ」シリーズ発売



全国の会員生協やお取引先との連携した取り組みが進む

- 2011** 東日本大震災「放射性物質摂取量調査」開始



- 2012** 「CO・OP商品における化学物質のリスク管理政策」を策定

- 2013** 冷凍食品農薬混入事件
「商品お申し出対応・事故対応連携強化委員会」を設置し、全国の生協の連携強化に取り組む

- 2016** 全国の生協共通のお問合わせ管理システム「クイックプロII」運用開始

- 2017** 「品質保証連携強化委員会」設置。商品検査、工場点検、お申し出対応の全国連携を促進

《TOPICS》

● 日本生協連のさまざまな働きかけ

日本生協連は、全国の生協、組合員、消費者団体、お取引先とともに食品の安全性に関する社会的な課題についてさまざまな働きかけを行政、国会、業界等に対して行ってきました。食品衛生法が1995年に改正され、天然添加物の規制強化など一定の前進はありましたが、まだ不十分な内容と評価し、リスクアナリシスの考え方の導入などを求めて新たな運動を進めることにしました。全国の生協と協力した「食品の安全を求める国会請願署名」は1370万筆に及び、2001年に請願が採択されました。2003年には食品衛生法の改正と食品安全基本法の制定が行われ、食品安全行政にリスクアナリシスの考え方が導入されました。



▲1995年の食衛法改正後に発行された組合員向けの学習資料

2019年度活動報告のごあいさつ

新型コロナウイルスによる感染拡大により社会が大きく変動し、日本生協連での商品事業はもちろんのこと、品質保証の活動も大きな影響を受けています。2020年度にCO・OP商品は60周年を迎えていますが、今まで当たり前に行っていた活動が制限される経験を踏まえ、改めて品質保証の在り方についても見直しや強化を図っていく必要があると考えております。

これまで生協の品質保証活動は60年間に渡って模索・編成・構築・適正化を図ってまいりました。今後も品質保証の体系や、それに携わる人材をどのように育成していくかの未来像を、全国の生協が一丸となって考えていく必要がありますので、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

日本生協連
品質保証本部長
黒神 英司

日本生協連 ホームページのご案内



コーポレートサイト URL <https://jccu.coop/>

日本生協連全体のホームページ。日本生協連が提出したパブリックコメント等の意見書や食品の安全に関するQ&Aもご紹介しています。

P.4

商品検査センターのページ



コーポレートサイト▶コープ商品▶食の安全の取り組み
コープ商品サイト▶知る▶安全・安心を大切に

P.11

政策提言（意見書等）



コーポレートサイト▶日本生協連からの
お知らせ・ニュースリリース

P.13

食品中の放射性物質問題について



コーポレートサイト▶コープ商品▶食の安全の取り組み

コープ商品サイト URL <https://goods.jccu.coop/>

CO-OP商品のホームページ。お問合わせを受けて改善した事例や商品のQ&A、商品検査センターについて紹介しているほか、各商品の詳細情報が調べられる検索ページもあります。

P.8

コープ商品のQ&A



コープ商品サイト▶お問い合わせ

P.8

組合員の声に応えて



コープ商品サイト▶創る

P.12

商品の詳細情報（添加物・産地等）



コープ商品サイト▶知る▶安全・安心を大切に

日本生協連 品質保証本部の体制

品質保証本部

安全政策推進室
（基準の作成・政策立案）

品質保証部
（工場点検・商品リスク点検）

商品検査センター
（商品検査・原料検査・調査研究）

安全品質管理部
（予兆把握・事故対応）

お問合わせ管理センター
（お申し出対応）

組合員サービスセンター
（お問合わせ対応）

共に品質保証業務を担う関連部署

工場・産地の点検	商品本部／生活用品事業本部
取引先の管理、仕様書点検	ブランド戦略本部（開発管理部）
モニターテスト、声の取り組み	ブランド戦略本部（マーケティング部）

▲商品検査センター（埼玉県蕨市）

▲コーププラザ（東京都渋谷区）

※カッコ内は主な業務

作成協力
生協

コープさっぽろ／コープ東北／コープふくしま／コープデリ連合会／東都生協／ユーコープ／パルシステム連合会／東海コープ／トヨタ生協／コープ北陸／コープきんき／コープこうべ／コープCSネット／コープ九州／エフコープ

発行日：2020年6月 発行：日本生活協同組合連合会